

令和6年度 小平市立小平第五中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することについて生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

2 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体の正答率は全国平均より 3.9 ポイント高い。特に、要約に関する問題の正答率は 10.8 ポイント、漢字の読み書きに関する問題の正答率は 8.5 ポイント全国平均を上回った。

行書の特徴に関する問題では 1.7 ポイント、短歌の内容に関する問題では 3.6 ポイント全国平均

課題

詩歌のように少ない語句を吟味し、描写や内容を考える力を一層育む必要がある。また、日常生活に関連付けて我が国の言語文化に関する事項を学習することが必要である。

また、無回答率と正答数の分布から力の差が大きいと推察されるため個別の指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

今年度後半の詩歌や古典の学習において、少ない語句を適切に読み取り、描写や内容の理解にせまる課題設定に努める。また、書写の指導においては、年末の書初め課題にむけて、我が国の言語文化に関わる事項を日常生活とのつながりに留意して指導にあたる。

個別の指導が必要な生徒については、個別・グループでの学習活動に際して適宜助言を行うとともに学習活動に取り組む中で既習事項の確認ができるような課題設定を行う。

【数学】

状況の分析

全体の正答率は全国平均より 3.5 ポイント高く、16 問のうち全国平均を下回った問題はデータ活用と関数の分野の 3 問であった。

全国平均を下回った問題の共通点は、それぞれの分野での応用問題であり、それらの問題の無回答率は全国平均より高い。

課題

左記の通り、データの活用と関数の分野において応用問題が課題である。問題文の長さや、式の複雑さにより無回答としてしまう生徒も見られる。授業で基本的な知識をどのように活用するかを問う問題を出題し、個人、グループワークなどを交えてじっくりと考えさせる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・ 基本的な内容の小テストを単元ごとに行い、応用問題を解くための基礎知識の定着を図る。
- ・ 応用問題を取り組ませる際に、生徒の実態に合わせた学習プリントを活用したり、グループ学習の時間を適宜とったりすることで、応用問題に粘り強く取り組む姿勢を育む。
- ・ 解き方を生徒に発表させることで、様々な解き方を知る機会を与え、その問題への理解を深める。

【質問紙】

状況の分析

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問で2割強の回答が否定的な意見になっている。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」という質問で、肯定的な意見が全国・東京都平均より、11ポイント低かった。学年教員の入れ替えが多かったことが原因と考えられる。

学習に関する質問の回答は、全体的に全国・東京都との数値と大きな変化はなかった。

課題

学校に登校できている生徒の中でも、さまざまな要因で登校することに後ろ向きな生徒がいる。生徒のようすの変化に気付いて教員が声を掛けることが多いものの、生徒が自ら相談する。

生徒が悩みごとや困りごとがあるときに、いつでも安心して周りの大人に相談できる体制を、家庭、地域と連携し引き続き構築していくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

生徒が「学校に来ることが楽しい」と感じるのは、友人関係が良好であることも大きな要因だが、「授業が楽しい」「学習内容が分かる」と感じる事が一番影響が大きい。そこで、毎授業での「めあて」の提示及び「振り返り」を丁寧に行い、学習の見通しや学習した内容の確認を行い、毎授業が「楽しい」「分かる」と感じられるように取り組んでいく。また学習以外の面でも担任だけでなく学年の体制、そして学校全体の体制として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、さまざまな教職員、外部機関と連携して、生徒がいつでも誰にでも相談できる体制をつくる。

調査結果を受けた授業改善としては、調査結果が国及び都の平均正答率との差異がほとんどなかったことを良しとせず、基礎的・基本的な学習内容の定着を要としながらも、チーム五中として、学校の特色を出した授業が行えるよう、教科内の打合せや教科間での意見交流を通して充実した指導が行えるようにしていく。